

プリ管とパワー管の組み合わせの 違いまで聴き比べられる、 真空管専門のWebショップ



**VINTAGE
SOUND**

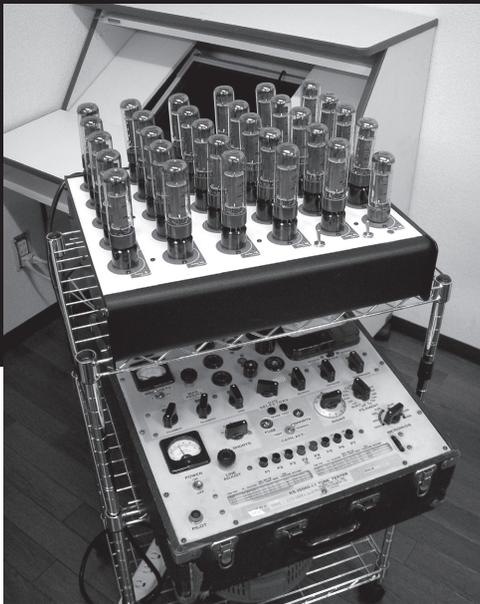
ヴィンテージサウンド

〒198-0042 東京都青梅市東青梅2-16-7 OGYビル1F

TEL:0428-20-5174

URL=http://www.vintagesound.jp/

営業時間=10:00~17:00 / 定休日=水曜日 / 木曜日



↑同社のサイトで販売されている真空管は、厳選した良質の真空管をさらに専用の機器を使用して、1本ずつ時間をかけて丁寧にエイジングされたものばかりだ

↑SOUND BARRのサンプル画面。評価は、プリ管とパワー管の組み合わせ例をクリーンサウンド/歪みサウンド/サスティン/解像度/ダイナミックレンジ/明瞭度6項目を5段階のレーダーチャートで表示。また、Webでも高音質なサウンドで試聴できるように、試聴音源はすべてWAV形式でアップされている。なお、試聴音源の収録は、アイバニーズのSZ (6弦)、RG8 (8弦)の2種類のギターをディーゼルのアンプヘッドVH4とメサブギーのキャビネットの組み合わせで演奏したものを、Logic ProとアボジのAD/DAコンバーターRosetta800で録音し、それをリアンプして収録している。今後はさらに高音質なサウンドで収録するために、DAコンバーターにグレースデザインのm904を使い、スタインバークのNuendoに収録したものを公開していくという



↑右が同社社長の佐々木英明氏、左はSOUND BARRの試聴音源を作成した録音エンジニアのDr.Subsonic氏。Dr.Subsonic氏は、バンド系やダンス系アーティストのギタリスト、プログラマー、コンポーザーとして活動する一方、ファッションショーの音楽制作や監修も行なう、フリーの録音エンジニアだ

同社が多岐の真空管ショップと異なるのは、良質の真空管を厳選して販売していることと、サイト内の「SOUND BARR」※というコンテンツで、様々な種類の真空管を聴き比べられる。673種類(3月末現在)にも及ぶ音源を公開しているという点だ。

この試聴音源は、真空管を交換してアンプサウンドを収録した単純なものではなく、膨大な種類のプリ管とパワー管を1本ずつギターアンプに

入れ替えて録音し、その組み合わせの違いを1年以上の期間を費やして音源化した貴重なものだ。

同社の社長である佐々木氏によると、このプリ管とパワー管の組み合わせは、同一規格の真空管同士の間でも問題になるマッチドペアと同様に、チューブアンプの音を本当に良くする最大のポイントだという。どんなにいい真空管に交換しても、プリ管とパワー管の相性によって、実力が発揮できないばかりか、求める音とは異なる音になってしまい、「真空管を交換したけど音が良くならない」ということになってしまふという。

また、同社では、初めて真空管を交換する人のために、「間違えだらけの真空管選び」、「真空管入門」、「バイアス調整入門」、「真空管交換」といったノウハウのコンテンツも充実させており、購入の際に「どんなアンプを使用しているのか」、「どんな音にしたいのか」、「購入したい真空管と組み合わせる細かな点まで相談のつてくれる

ので、初心者でも安心して利用できる。さらに、電話による真空管についての無料相談も受け付けている(フリーダイヤル0120-0194-380/午前10時~午後5時)。ここまでくると、ショップというよりも真空管のコーデイナーと呼んだ方がふさわしいほどだ。

ちなみに、音楽制作の現場では、真空管というとギターアンプはもちろんだが、マイクプリなども気になるところだが、これに関して佐々木氏は、マイクプリは、使用している真空管の本数が1本と2本というシンプルなものによる影響が大きいという。選び方も音色面だけでなく、音量やノイズがレベルポイントとなるそうだ。「SOUND BARR」で試聴する際には、試聴音源をクリーンサウンドで再生して試すというだろう。

※SOUND BARRは、無料体験版と有料のライセンス版があり、すべての音源を試聴するには有料のライセンス版の購入が必要(1年ライセンス¥168,000/2年ライセンス¥1万1560/3年ライセンス¥1万5300円)

↑真空管入門のノウハウページ。真空管のタイプの構造や、代表的な真空管の見分け方、真空管でアンプが鳴る原理、交換方法など、初めて真空管に触れる人でも、真空管が理解できる。

↑同社の販売ページ。パワー管/プリ管の違だけでなく、メーカーやタイプなど、膨大な在庫の中から目的の真空管がすぐ選べるように、わかりやすくカテゴリ分けされている。